南部中ホームページ （http://www.nanbu-chu.ed.jp/）はこちらから →

南部町立南部中学校　学校だより　第 16 号

チーム南部中

令和４年 12月15日（木）
校長　望 月 和 彦

「富士川物語」ふるさとの歴史と平和を考える

11 月 30 日（水）に芸術鑑賞教室を行いました。今回の中身は演劇「富士川物語」です。この演劇は，戦時中の南部町（もとの西八代郡栄村）で実際にあったできごとを題材にして創られた作品です。生徒たちが地域の歴史を学ぶと共に，戦争や平和，人権について考える大切な機会にできると考え，令和２年度に，芸術鑑賞教室の中身として準備を進めました。しかし，新型コロナウイルス感染症まん延のために２年間実施することができず，企画から３年目の実現となりました。

この「富士川物語」は，平成 26 年に「やまなし県民文化祭」の文学部門エッセーの部で文化祭賞を受賞した渡辺修孝先生（成島在住）の「孫春任（ソンチュンイン）のこと」というエッセーをもとにして，演出家の水木亮先生によって戯曲化されたものです。修孝先生は，太平洋戦争が始まる 1941（昭和 16）年に初めて教員になり，栄国民学校（現在の栄小）の６年生の担任になります。そこで，受け持った学級で出会ったのが朝鮮人労働者の子どもの近藤春子（本名：孫春任）さんでした。その頃の栄国民学校（十島分教場，佐野分校，高等科も含めて）には 800 人を超える児童がいて，日本人の子どもと一緒にたくさんの朝鮮人の子どもも学校に通っていました。その一人が春子さんでした。修孝先生の記憶によると，クラスには 33 人の児童がいて，その内の７人ほどが朝鮮人の児童だったそうです。

では，なぜ，栄村には朝鮮人の子どもやその家族がたくさんいたのでしょう。それは，日韓併合条約以来の朝鮮半島の植民地化，満州事変・日中戦争に続く太平洋戦争，戦闘機生産とアルミニウム需要，アルミニウム生産と富士川の電源開発，導水路トンネル掘削という危険な工事と朝鮮人労働者など，当時の我が国が関わっていた戦争や政府の方針などが深く関係していたのです。

↑ 演出家の水木亮先生と役者の方々

↑ 成島にお住まいの渡辺修孝先生

劇の中では，朝鮮人の方々に対する差別やいじめがあったこと，朝鮮人労働者やその家族が過酷な生活を強いられていたことについても触れられており，そうした厳しい環境の中にいた教え子の春子さんやその家族を，修孝先生は教師として支えようとします。やがて，修孝先生は兵隊として出兵し，春子さんは結婚して和歌山に移住し，消息がわからなくなってしまいます。1988（昭和 63）年，40 年ぶりに春子さんがお世話になった修孝先生の家を訪れます。劇はこの場面から始まり，過去にさかのぼりながら，修孝先生と春子さんやその家族との心の絆が描かれていました。

この「富士川物語」を創った演出家の水木亮先生や役者・スタッフ 13 名の方々は，コロナ禍の厳しい状況の中でしたが，「この演劇の内容が南部町の実際の出来事であり，その南部町の中学生に是非観てもらいたい」と当日まで一生懸命稽古してくださったとのことでした。そして，この演劇の主人公であり，101 歳になられた渡辺修孝先生も会場に来てくださりました。修孝先生は生徒たちに「戦争は残酷であり絶対にしてはなりません。皆さんは地球人です。異なる文化を互いに理解し合って仲良くしな

ければなりません。理想をみんなで求めていくのです。戦争を学ばない人がいる限り，戦争はなくなりません。歴史をしっかり学んでください。」と，力強く生徒たちに願いを伝えてくれました。

期末テスト２日目の午後ということでしたが，生徒たちは強いメッセージを持った迫真の演技と修孝先生の話に集中して１時間半を過ごしていました。生徒たちはたくさんのことを学び，大切なことを感じてくれたと思います。本校の生徒たちに見せたいという私の願いも，３年目でやっと叶えることができました。

新しいリーダーを選ぶ　「生徒会役員選挙」

11 月から約１ヶ月間，本校の生徒会役員選挙の取り組みが行われました。告示の発行，立候補の受付，選挙運動の方法の周知と指導，選挙ポスターの準備，立会演説会の運営，投開票など選挙に関わる活動を取り仕切ったのは村松士輝委員長をはじめとする各クラスから選ばれた 12 名の選挙管理委員会です。生徒会会則や生徒会選挙規定に則り，選挙の仕組みを全校生徒に周知させながら，公正な選挙活動を進めてくれました。

生徒会役員選挙で選ぶのは会長１名，副会長２名の３名です。令和４年度後半から令和５年度の新生徒会役員に立候補したのは，生徒会長に遠藤夏奈さん（２A），生徒会副会長に石原あゆみさん（２B）と山本庚実さん（２A）の３名でした。立候補者の人数が定員と同じだったので，規定により投票は行われず３名とも自動的に信任されたことになります。立候補者３名は信任が決まっても，「どんな生徒会を創りたいか」「どんな南部中にしたいか」「そのためにどんな取り組みをしたいか」などについて全校生徒に知ってもらうために，各学級を訪問して選挙演説を行い，12 月７日に行われた体育館での「立会演説会」では全校生徒に公約を発表しました。遠藤夏奈さんは「仲間を尊重し合い，全校が安心できる学校を創っていきたい。」石原あゆみさんは「全校生徒が協力し，お互いを高め合える学校を目標にしたい。」山本庚実さんは「学校の全員が自分らしく輝ける学校を目指したい。」と目指す学校像を掲げ，そのための具体的な手立てを堂々と述べました。３人の候補者の責任者の芦川圭澄さん，鈴木湊羅さん，依田大輝さんも，それぞれの候補者のリーダーとして優れている点をあげながら応援演説をしてくれました。演説の最後には質疑応答が活発に行われ，３人が目指している生徒会活動や学校づくりのイメージを全校生徒に伝えることができたようです。３学期から始動する新生徒会の活動が楽しみです。

いのちと性について考えた「思春期体験学習」

10 月 28 日（金）に思春期体験学習を行いました。今年度は，「ricorino いのちの教室　代表　福田紀恵さん」に講演をしていただき，その後，体験活動を行いました。

講演の中では，赤ちゃんが母親のお腹の中でどのように成長し，どうやって産道を通って生まれてくるのかを丁寧に話してくださいました。その中で，「生まれてきた赤ちゃんは愛がないと生きられない。今みんながここにこうやっているという事は，しっかりと愛されてきたという事だ。」というお話が印象的でした。また，思春期を迎えている生徒達に，「“性”とは何か？”心”が”生きる”と書いて”性”。自分らしい生き方の事であると思う。”性”について知る事は恥ずかしい事では無い。自分の体を知り，自分を大切にして欲しい。ただ，絶対にネットの情報に振り回されてはいけない。信頼出来る大人からしっかりと教わることが大切だ。」ということを伝えてくれました。講演の最後には，赤ちゃんが実際に生まれるところを撮影した映像を視聴しました。赤ちゃんがこの世に誕生する，まさにその瞬間の映像はとても衝撃的であり，感動するものでした。　体験活動では，妊婦ジャケットを全員が着用し，妊婦さんの大変さを実感しました。また，実際の赤ちゃんの抱っこ体験は出来なかったのですが，昨年度，南部町愛育会から寄贈された赤ちゃん人形を一人ひとりが抱っこする体験も行いました。

南部町では，出生数が年々減少しており，実際に赤ちゃんを招いての学習会は難しくなってきました。生徒たちが日頃赤ちゃんを身近に感じることがない状況の中だからこそ「いのちが生まれる事，そして，いのちが育まれていく事」について，しっかりと学べる機会をつくることの必要性を強く感じた時間でした。（養護教諭　佐野　舞）